

平成 30 年度

男女共同参画に関する市民意識調査

報告書（概要版）

静岡市 市民局 男女参画・多文化共生課

I 調査の概要

1. 調査の目的

本市では、性別にかかわらず、それぞれの個性と能力を発揮し、家庭、地域、職場などあらゆるところに共に参画し、責任を担いあう社会、『男女共同参画社会』の実現を目指しており、平成 27 年度(2015 年)から平成 34 年度(2022 年)を期間とする「第3次静岡市男女共同参画行動計画」の後期計画の見直しにあたり、計画改定の基礎資料とする。

2. 調査の方法

- (1) 調査対象 18 歳以上の市民
- (2) 標本数 2,500 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から 18 歳以上の市民を無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送調査・自記式アンケート
- (5) 調査期間 平成 30 年 5 月 7 日(月)～平成 30 年 5 月 25 日(金)

3. 回収率

配布数	有効回収数	有効回収率
2,500 票	889 票	35.6%

この冊子の読み方

1. 結果は百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入しています。このため百分率の合計が 100%にならないことがあります。
2. 数値やグラフ中の「N」は回答者総数を示し、回答比率はこれを 100%として算出しています。
3. 複数回数をしてもよい設問では、百分率の合計が 100%を超える場合があります。

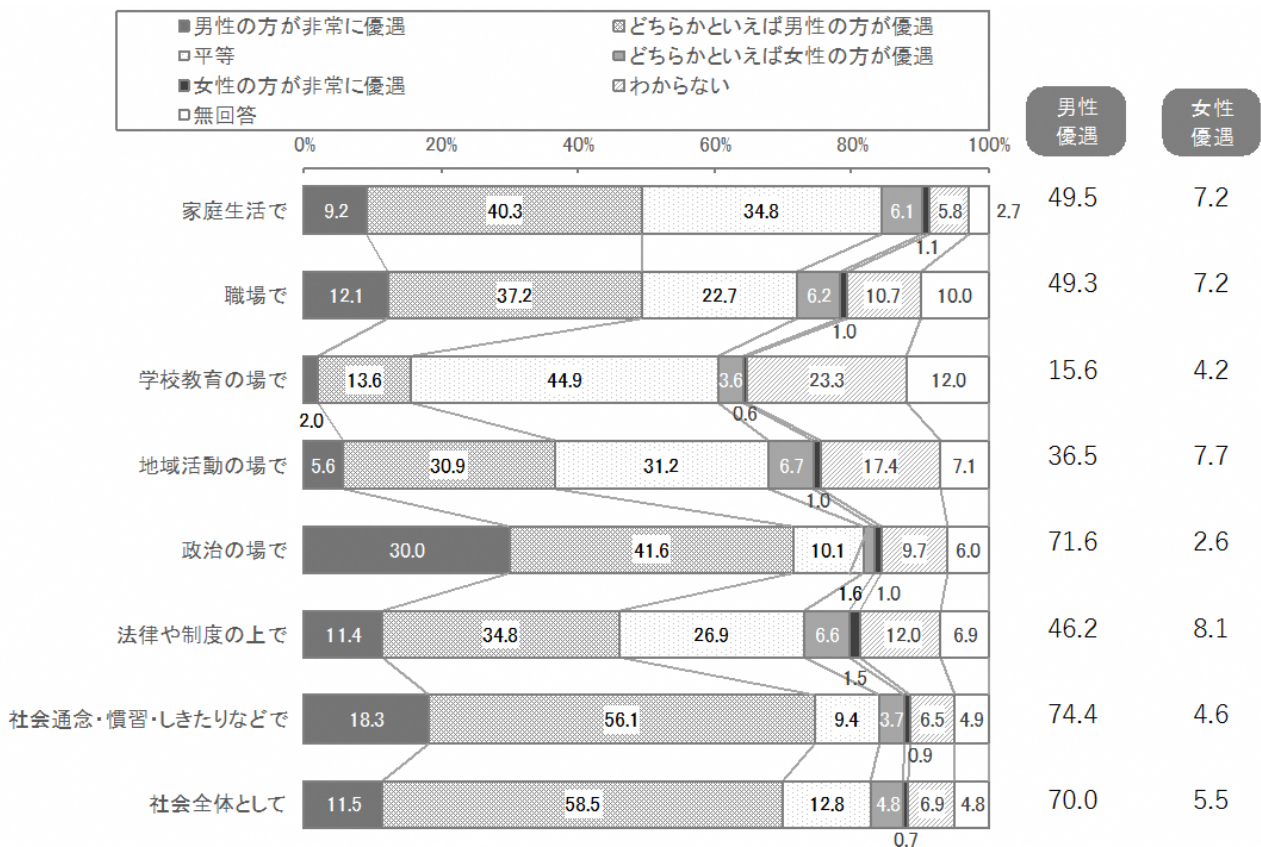
II 調査の結果

(1) 男女平等に関する評価

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
あなたの気持ちに近いものをお答えください。（項目ごとに〇は1つずつ）

各場面における男女平等に関する評価をみると、「平等」と回答した人の割合が最も高いのは「学校教育の場で」の44.9%だった。その他の場面においては、「男性優遇」が「女性優遇」を大きく上回り、特に「政治の場で」「社会通念・慣習・しきたりなどで」「社会全体として」は約7割が「男性優遇」と回答している。

全 体 (n=889)



※詳しくは本冊 P. 8～14 をご覧ください。

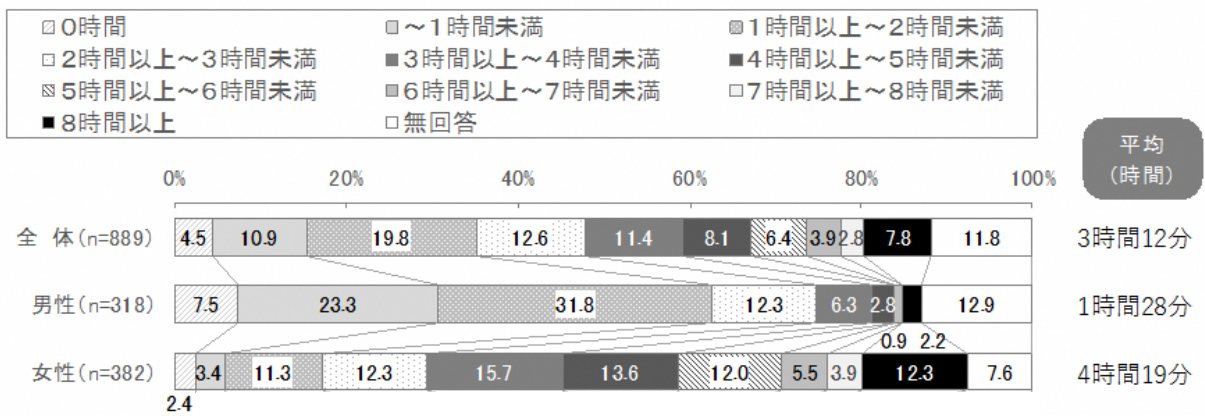
(2) 家事・仕事の時間

問2 あなたが1日に行う家事（育児や介護を含む）の時間と、仕事（収入を得るための労働）の時間は、それぞれ平均どの位ですか。（数値を記入）

【家事の時間】 ※平均時間は、「無回答」を除いた平均値

1日あたりの「家事の時間」については、全体では「1時間以上～2時間未満」が19.8%と最も高く、「無回答」を除いた平均時間は3時間12分となった。

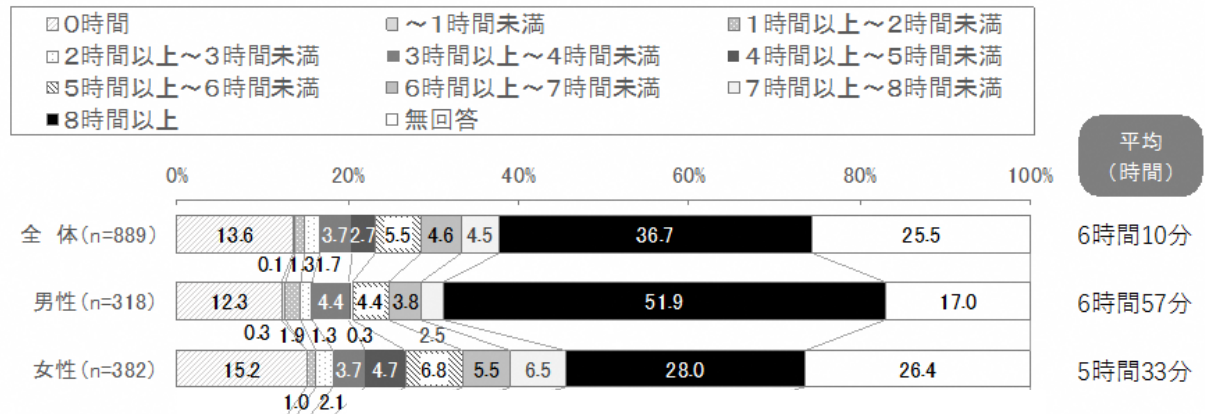
男女別にみると、男性では「1時間以上～2時間未満」が31.8%と最も高く、平均時間は1時間28分、「2時間未満」が男性全体の約6割を占める。女性では「3時間以上～4時間未満」が15.7%、「4時間以上～5時間未満」が13.6%、「8時間以上」も12.3%を占め、平均時間は4時間19分となった。



【仕事の時間】 ※平均時間は、「無回答」を除いた平均値

1日あたりの「仕事の時間」については、全体では「8時間以上」が36.7%を占め、「無回答」を除いた平均時間は6時間10分となった。

男女別にみると、男性では「8時間以上」が51.9%を占め、平均時間は6時間57分となっている。女性では「8時間以上」が28.0%と低く、平均時間は5時間33分と、男性と比べて仕事の時間は短くなっている。



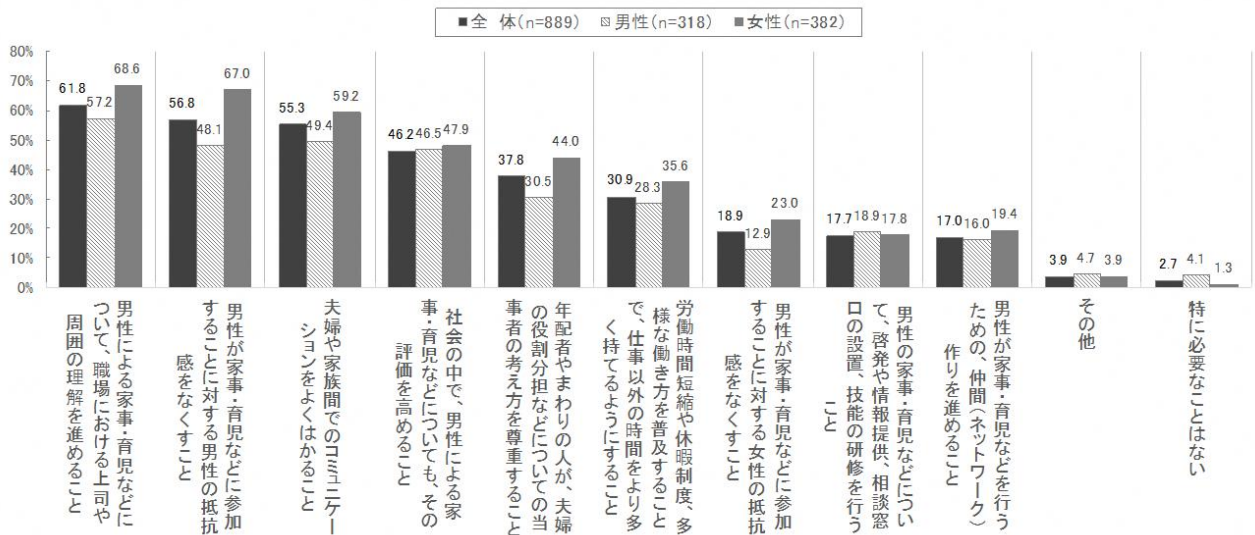
※詳しくは本冊 P. 20～23 をご覧ください。

(3) 男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくための考え

問3 今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについては、「職場・周囲の理解を進めること」61.8%、「男性の抵抗をなくすこと」56.8%、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」55.3%、「社会の中で男性による家事・育児などの評価を高めること」46.2%が上位となった。

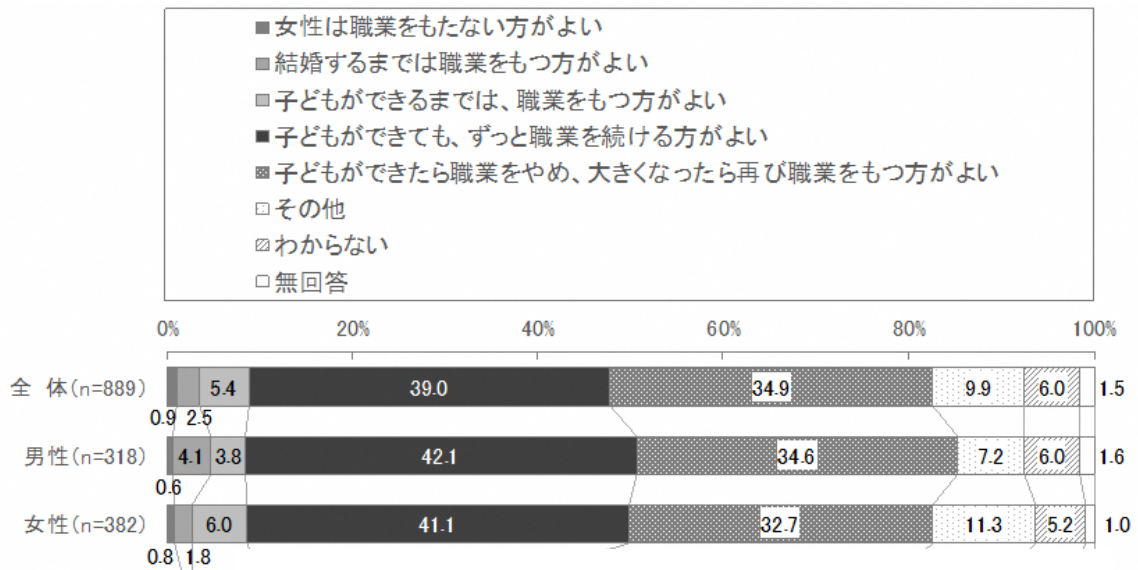
男女ともに「職場・周囲の理解を進めること」はトップの項目と挙げられている。全体的に女性が男性の割合を上回っているが、特に「男性の抵抗感をなくすこと」については、女性で 67.0%、男性で 48.1%と男女間の差が大きくなっている。一方、男性では「夫婦や家族間でのコミュニケーション」49.4%が2位、「社会の中で男性による家事・育児などの評価を高めること」も 46.5%と、男女間の差がない項目となっており、「理解」と同時に、「コミュニケーション」「評価」を必要としている意識がうかがえる。



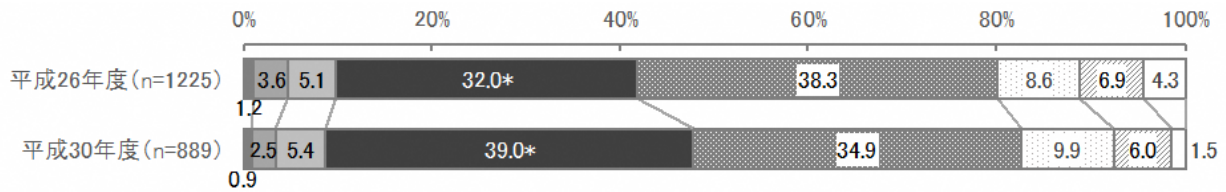
※詳しくは本冊 P. 25 をご覧ください。

(4) 女性が職業をもつことについての考え

問4 一般的に女性が職業をもつことについて、どう考えますか。(○は1つ)



<経年変化> *平成26年度：ずっと職業を続ける方がよい、平成30年度：子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい



女性が職業をもつことについて、全体では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」39.0%、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」34.9%の順となっている。

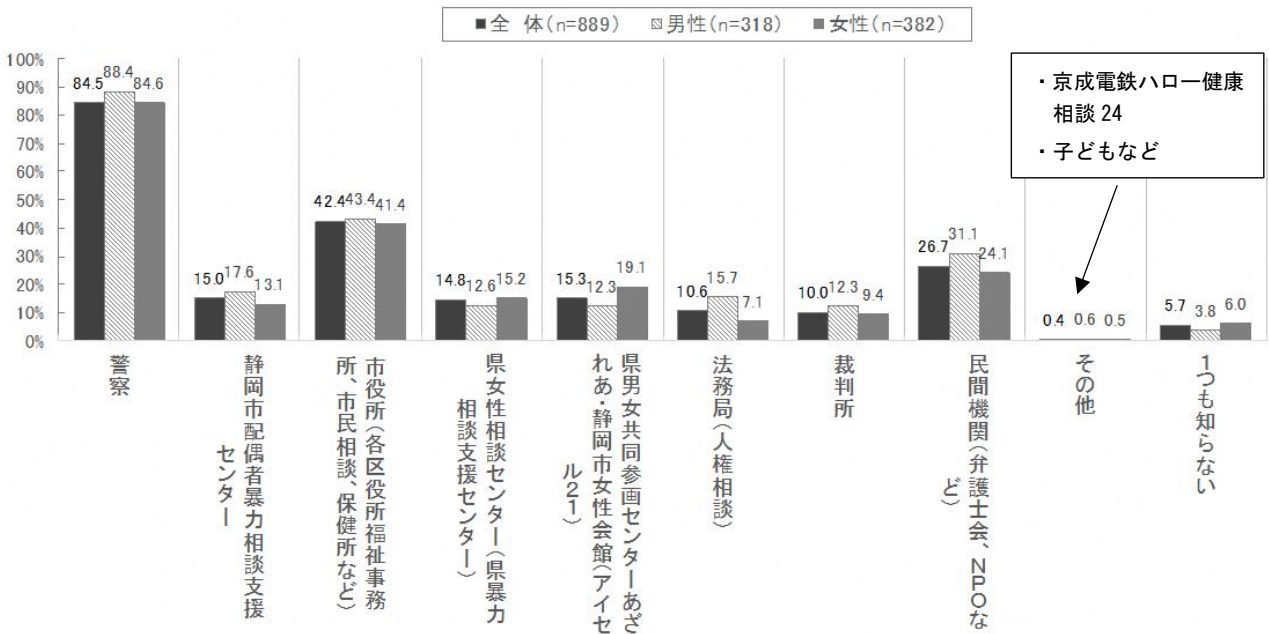
男女ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」を上回り、特に30代では前者の割合が54.2%と高くなっている。

経年変化でみると、平成26年度調査に比べて、「ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高まり、この2者の順位が逆転しているものの、まだ女性が仕事をもつことについて消極的な考え方の割合の方が高いといえる。

※詳しくは本冊P.26をご覧ください。

(5) 配偶者からの暴力に関する相談窓口の認知度

問5 配偶者からの暴力に関する相談窓口として知っているものを教えてください。
 (〇はいくつでも) ※婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます。



配偶者からの暴力に関する相談窓口として知っているものについて、全体では「警察」84.5%、「市役所」42.4%、「民間機関」26.7%が上位となった。

「静岡市配偶者暴力相談支援センター」は 15.0%、「県女性総合センター(県暴力相談支援センター)」は 14.8%で、いずれも 40 代以下の認知率が1割未満と低い状況にある。

※詳しくは本冊 P. 43 をご覧ください。

